

NISHINOMIYA EBISU

西宮 えびす

諸国探訪／八木西宮神社

西宮まつり

本殿復興五十年境内整備事業

平成22年
夏号

えびす万燈籠

西宮神社



八木西宮神社

〔鎮座地〕兵庫県養父市八鹿町上八木 氏子総代 西木春義氏



八木西宮神社

当社は但馬で一番古いえびす神社で「八木のえべつさん」と呼ばれ親しまれています。

で出迎えたといひます。その後、明治十四年（一八八二）に同地野口村に鎮座されていた「大國主命大神」を合祀し、現在の地に新たに鎮座されました。

撒くことで人気を呼んでいました。福品は、農具・蚕具等農家に必要な物が多かったようです（昭和六十三年まで）。その頃は、露天商も多く但馬有数の祭りでした。現在は福木撒きを福引に変え、また縁起物、吉兆も取り揃えています。



福木

は、但馬八木城跡（国指定文化財）の城下町に在り、上八木区氏子三十三戸でお守りしています。当社は古く八木村野口という集落に八木多びす神社として鎮座し、嘉永五年（一八五二）十三代將軍徳川家定の時、村人数名で西宮総本社に御分霊のお願いに上がり、その時「西宮」の二字使用を許され、同時に焼印と木版（西宮大神宮）を頂いております。

本殿には「えびす大神・大國主命大神」を御祀りしています。祭典当日は名物「福木」（長さ二三センチ・幅五センチ）を二十四本（二年は十二ヶ月・干支は十二支）、参拝者の二年間の金運招福・無病息災・商売繁盛等多くの人々の幸せを願ひ大松の上、また高台より

平成二十三年は御分霊より百六十周年を迎え盛大にお祭りをと考えております。寒村高齢化進む中、部落活性の為一人でも多く参拝して頂けるよう氏子一同努力しています。

諸国探訪 十五

御分霊を許された帰路時の言い伝え話があります。帰路は「御用」の高張提灯を押し立て、途中の宿には番人が六尺棒を持って不寝番をし、又地元村人は羽織袴



参拝の人達

平成二十三年は御分霊より百六十周年を迎え盛大にお祭りをと考えております。寒村高齢化進む中、部落活性の為一人でも多く参拝して頂けるよう氏子一同努力しています。

バックの青い絵は八木西宮神社の木版刷りお札

全国講社関係御参拝

（平成二十一年十月～二十二年三月）

当社の主祭神であるえびす様は全国より篤い崇敬を仰いでおります。ここでは講社関係ご参拝の方々をご紹介します。

- 十月十八日 岐阜大垣船町祭事委員会一行
- 十月三十日 群馬大泉町商工会行
- 十一月七日 石川宇出津定置漁業組合行
- 十一月八日 京都 勝山えびす講行
- 十一月二十二日 東京 東京えびす講行
- 十二月一日 愛知 吉良えびす講行
- 十二月六日 岐阜 本町西宮神社行
- 十二月二十日 兵庫 和太講行
- 十二月二十五日 兵庫 神水恵比須神社祭礼奉賛会一行
- 十二月二十六日 宮城 金山えびす講行
- 十二月二十七日 高知 高知十日えびすの会行
- 十二月二十七日 兵庫 西宮神社三田分社行

- 一月二日 兵庫 育波浦漁業協同組合一行
- 一月三日 兵庫 西宮神社三田分社行
- 一月三日 滋賀 下横町えびす講行
- 一月五日 兵庫 山下えびす講行
- 一月五日 兵庫 森えびす神社行
- 一月六日 兵庫 片瀬えびす講行
- 一月八日 兵庫 天神えびす講行
- 一月九日 静岡 西宮神社一行
- 一月九日 大阪 大阪第二招福組
- 一月九日 兵庫 上久米えびす講行
- 一月九日 兵庫 池野西宮神社行
- 一月九日 群馬 桐生西宮神社行
- 一月九日 愛媛 松木えびす講行
- 一月九日 兵庫 姫路えびす講行
- 一月九日 福岡 筑後諏訪えびす奉賛会一行
- 一月九日 兵庫 香住水産加工業協同組合行
- 一月九日 東京 東京えびす講行
- 一月九日 兵庫 中ノ町戎講行
- 一月九日 兵庫 五住会行
- 一月九日 兵庫 西宮漁業協同組合三軒家戎講行
- 一月九日 滋賀 天神講行
- 一月九日 兵庫 新野辺西えびす講行
- 一月九日 大阪 淡輪漁業協同組合一行
- 一月九日 大阪 豊中えびす講行
- 一月九日 香川 伊吹大網組合行
- 一月九日 大分 出町えびす講行
- 一月九日 三重 真神講行
- 一月九日 福井 小浜魚商蛭子講行
- 一月九日 和歌山 白浜恵比壽神社行
- 一月九日 京都 宮津煉製水産加工業協同組合行
- 一月九日 奈良 下市蛭子神社行
- 一月九日 石川 相川新蛭子神社行
- 一月九日 京都 野原大敷網漁業組合行
- 一月九日 長野 須坂西宮神社行
- 二月九日 岐阜 大垣市伝馬町祭事委員会行
- 二月九日 京都 成生水産行
- 二月二十五日 兵庫 東二見漁業協同組合行
- 三月六日 山形 桐町西宮戎神社行
- 三月十四日 大阪 豊中えびす講行
- 三月二十二日 京都 松原町えびす講行



真榊講一行



小浜魚商蛭子講一行



宮津煉製水産加工業協同組合一行



下市蛭子神社一行



大垣船町祭事委員会一行



金山えびす講一行



和太講一行



勝山えびす講一行

- 一月十日 兵庫 育波浦漁業協同組合一行
- 一月十一日 兵庫 西宮神社三田分社行
- 一月十三日 滋賀 下横町えびす講行
- 一月十八日 兵庫 山下えびす講行
- 一月十八日 兵庫 森えびす神社行
- 一月十八日 兵庫 片瀬えびす講行
- 一月十八日 兵庫 天神えびす講行
- 一月十八日 静岡 西宮神社一行
- 一月十八日 大阪 大阪第二招福組
- 一月十八日 兵庫 上久米えびす講行
- 一月十八日 兵庫 池野西宮神社行
- 一月十八日 群馬 桐生西宮神社行
- 一月十八日 愛媛 松木えびす講行
- 一月十八日 兵庫 姫路えびす講行
- 一月十八日 福岡 筑後諏訪えびす奉賛会一行
- 一月十八日 兵庫 香住水産加工業協同組合行
- 一月十八日 東京 東京えびす講行
- 一月十八日 兵庫 中ノ町戎講行
- 一月十八日 兵庫 五住会行
- 一月十八日 兵庫 西宮漁業協同組合三軒家戎講行
- 一月十八日 滋賀 天神講行
- 一月十八日 兵庫 新野辺西えびす講行
- 一月十八日 大阪 淡輪漁業協同組合一行
- 一月十八日 大阪 豊中えびす講行
- 一月十八日 香川 伊吹大網組合行
- 一月十八日 大分 出町えびす講行
- 一月十八日 三重 真神講行
- 一月十八日 福井 小浜魚商蛭子講行
- 一月十八日 和歌山 白浜恵比壽神社行
- 一月十八日 京都 宮津煉製水産加工業協同組合行
- 一月十八日 奈良 下市蛭子神社行
- 一月十八日 石川 相川新蛭子神社行
- 一月十八日 京都 野原大敷網漁業組合行
- 一月十八日 長野 須坂西宮神社行
- 二月九日 岐阜 大垣市伝馬町祭事委員会行
- 二月九日 京都 成生水産行
- 二月二十五日 兵庫 東二見漁業協同組合行
- 三月六日 山形 桐町西宮戎神社行
- 三月十四日 大阪 豊中えびす講行
- 三月二十二日 京都 松原町えびす講行



桐町西宮戎神社一行



豊中えびす講一行



相川新蛭子神社一行



松原町えびす講一行



成生水産一行

西宮まつり

平成二十二年九月二十一日(火)～二十三日(木・祝)

宵宮 九月二十一日(火)

宵宮祭 午後五時～

西宮まつりの開催を奉告する祭典を本殿にて斎行します。

奉納演芸会 午後六時～

地元の方やゲストによる各種演芸が奉納されます。

昨年は吉本新喜劇でおなじみ島木譲二さんに来ていただきました。今年も有名人に会えるチャンス！



和太鼓を披露



楽しいマジックも

渡御祭 九月二十三日(木・祝)

昨年は海上渡御祭再興十周年を迎え、約四百年ぶりにえびす様をお載せする御座船を含め全船揃つての産宮参り(神戸和田岬へ渡御)を実現することが出来ました。今年も御旅所を浜脇地区に設け神幸してまいります。

発輿祭 午前十時～(予定)

本殿に於いておみこしにえびす様をお遷しするおまつりを斎行します。



時代衣装を身にまとった氏子たちの神幸行列

陸渡御 浜脇地区 午前十一時～

時代装束を身にまとった氏子たちを中心に行列を組み一路御旅所へと向かいます。



発輿祭

御旅所祭 浜脇地区 正午頃～

担当地区から選ばれた八人の童女たちが神楽を奉納し、海上の安全を祈願します。



童女たちによる神楽奉仕

例祭 九月二十二日(水)

例祭 午前十時～

当社で最も重要な祭典を本殿にて斎行します。全国から多くの崇敬者の方々が参拝に來られます。

稚児行列 午後三時～

かわいい衣装に身を包んだこどもたちが商店街を華々しく彩ります。



約220名の稚児行列

こども樽みこし 午後五時半～

各地区のこどもたちが力を合わせて飾りつけた三十基をこえるおみこしが商店街を練り歩きます。



こどもたちが飾り付けたみこしで商店街を巡行



氏子青年会「若戎会」のだんじりも三日間を通じて市内を練り歩きます。

船渡御 本船団

午後二時

えびす様を載せた御座船を中心に船団を組み西宮浜を周航します。

風まつり 午後二時半頃



風まつり斎行

御前浜沖に停泊し八乙女が切麻で四方を祓い清め海上の安全を祈願します。

分船団

午後一時十分

えびす様と縁の深い和神社三石神社へ向かい産宮船が出航します。

和神社・三石神社参拝

午後二時半頃

和神社三石両神社へ参拝します。

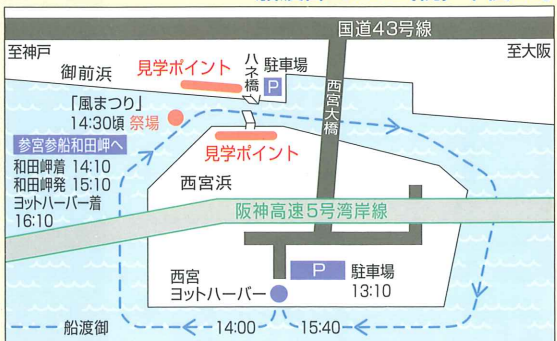
還御祭 於本殿

午後四時五十分～

えびす様をご本殿にお還しいたします。

※各行事は社務都合、天候等により変更となる場合がございますので予めご了承ください。

船渡御 9/23(祝) 午後2時



船団連なつての海上渡御



時の西宮神社社用日記を
ひもとく「えびすかわら版」
今号は天保九年（一八三八）
正月の公儀御礼と
その旅についてです。



神主	吉井上総介良明	祝部	田村伊織	祝部	堀江左門
権神主	吉井宮内良頭		広瀬兵馬		橋本右膳
社家	東向齋宮		大森主膳		神子 瓶子清太夫
祝部	大森致馬		大森主水		社役人 辻大炊

公儀年頭御礼への旅 (江戸往還日記 その一)

正月六日 独礼により御目見え

【諸準備】
 十一月
 藤田附船：御祓の箱ふとん、御影百枚他を江戸新川の米屋房太郎宛
 小西附船若栄丸（安治川）：有馬細工・扇他を同米屋宛
 江戸屋平右衛門飛脚：狩衣・上下等衣類（渋紙に包む）を本船町西宮九郎右衛門宛
 同月二十四日～十二月二日
 七日間の公儀御祈禱を執行
 十二月五日
 西宮勤番所、大坂西御番所社方へ江戸出府届出。白木箱入御添簡を頂戴
 同九日
 廣田西宮南宮御社へ御暇乞いに社参
 同十日
 一家で盃を交わし、明六つ

【年頭御礼の儀】

正月六日
 朝七つ時より支度、明方に出る。大下馬にて乗物より下り、控えていると案内があり入城する。

- 先弘 一人 袴羽織
- 先徒 二人 麻上下 正木方より出る
- 長刀 一人 袴羽織
- 輿 陸尺四人
- 輿脇 二人 麻上下
- 片箱 一人
- 長柄 一人
- 草履取 一人
- 両掛 一人 献上入
- 笠籠 一人

都合供廻り十五人

大下馬より二人に献上を持たせ、草履取りを連れて御玄関に伺う。
 頼んでいた御坊主加藤清閑に大御所様と右大將様への献上二台を渡す。公方様は当方が持参し、御玄関より二間奥にて御坊主衆へ巻数に手札を添えて渡し、獨礼席の松の大広間へ参る。

山崎一人が居られ、その次に座す。
 四つ過 公方様出御 各平伏。御披露が済むと御車寄へ下り大下馬から輿に乗る。
 次に御老中大老職
 井伊掃部頭様 外桜田

時前に出立

（西宮出立十日）江戸着二十五日
 道中 地図参照
 同二十五日
 七つ頃江戸日本橋数奇屋町山本市郎右衛門へ安着
 同二十七日
 寺社奉行正月御月番牧野備前守様へ参上
 裏付上下着用

撰州西宮廣田両社神主 吉井上総介
 御禮 正月六日 獨礼坐
 献上 卷数
 去ル天保五年午正月御禮相勤明
 春五ヶ年目二御座候御禮斗二而御暇等之儀者無御座候以上

大坂御添簡を渡す 公方様と右大將様への献上は宜しいが大御所様への献上は先例によるものかと尋ねられ、旧記は分らないが献上のつもりで出府した旨を伝えたと、紙硯を出されてその旨を認めるようにと申される。
 上野下谷御徒町御坊主加藤清閑へ参り、六日の御礼の御宜しく添え心を願ひ入る。有馬細工切手盆筆金子百疋を香料として進める

松平和泉守様 大名小路
 水野越前守様 西の御丸下
 太田備後守様 辰口北角
 脇坂中務大輔様 西の御丸下
 大御所様御老中松平伯耆守様
 右大將様附御老中坂田備中守様
 （以上、巻数并三本入桐扇箱）
 寺社御奉行方 手札のみ
 御社頭御普請奉行青山大膳様（献上は御老中と同）
 以上滞りなく勤め、八つ過に引取る

【解説】

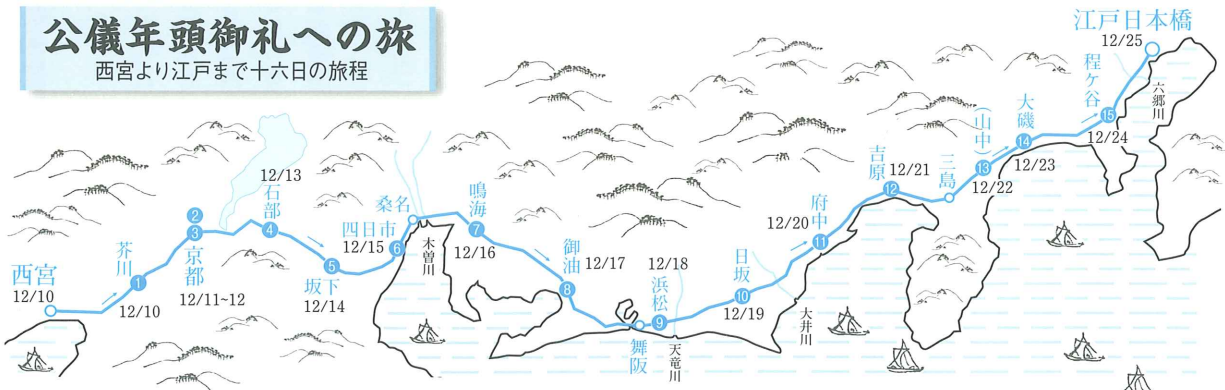
天保九年（一八三八）は公方様への年頭御礼の年にあたり神主が江戸へ出府する。入用の準備、手続き、公儀御祈禱、江戸への往来、江戸城大広間での御礼の様子について「御社用江戸日記」に記されている。
 今回の旅は、ここ数年米が大高値となり道中儉約をすること、江戸本船町の津の国藤兵衛の十二歳の倅次郎吉を（去年九月に西宮・上ヶ原に連れてきた）親元へ返すため同道していることがいつもと違う。

江戸への年礼出府は元禄期は毎年、その後緩和され幕末には五年目毎となった。当社は寛永十二年（一六三五）より公儀御礼を勤めている。
 西行法師

年たけて また越ゆべしと 思ひきや
 命なりけり 小夜のなか山
 在原業平
 駿河なる 宇都の山辺の うつつにも
 夢にも人に 逢はぬなりけり
 （新古今）

公儀年頭御礼への旅

西宮より江戸まで十六日の旅程



- ① 西宮 12/10
 - ② 京都市 12/11-12
 - ③ 桑名 12/13
 - ④ 四日市 12/15
 - ⑤ 御油 12/17
 - ⑥ 日坂 12/19
 - ⑦ 府中 12/20
 - ⑧ 吉原 12/21
 - ⑨ 大磯 12/22
 - ⑩ 江戸日本橋 12/25
- ① 御油～浜松
茶屋に御問所、舟を申付る 乗合無く一艘を申付 四百十六文 舞坂より泉州岸和田岡家同通、同宿
- ② 浜松～日坂
天竜川舟渡 一人前三十六文 池田宿より近道を行く
- ③ 日坂～府中
佐夜中山・大井川（七十六文）・瀬戸川（十二文）・宇都山・安部川（四十五文）西行業平の御歌を思い出す（注1）
- ④ 府中～吉原 富士川舟渡
⑤ 山中～大磯 問所の儀 冠物を取り少し目礼し滞りなく通る
⑥ 大磯～程ヶ谷 馬入川渡舟
⑦ 程ヶ谷～江戸日本橋 六郷の渡舟 支配所正木伊勢が大森迄出迎え 七つ頃江戸日本橋二丁目数奇屋町山本方へ安着 同道の子供を直ちに送り遣わず

大晦日
 御三社（廣田西宮南宮）へ遠拝 三田の大松寺（故左京亮良行の御墓所）へ参詣、住寺と面会、有馬竹細工角切手盆釜敷 筆二対 供物料金百疋持参 増上寺・愛宕・芝明神へ参る
 一月二日～三日
 御社へ拝礼 家来の者は両国橋、浅草、上野辺に参詣見物
 供者着用の麻上下、刀、長刀等を準備
 二日
 諸家様御登城を拝見に遣わす
 五日
 御月番牧野備前守殿へ罷り出る 別席へ案内される。火鉢、煙草盆がある。伊勢両宮、山崎、上州二宮図書、武州北野大宮司栗原左衛門その外両人ばかり、寺院が多く居る。
 公用人衆より明六日六つ時に登城のこと、また当年は御代替の事なので特に作法を宜しく致す旨を聞かされ、御書付を渡される。

明六日 六時
 御城江可被罷出候
 正月五日

● 世話人藤村浄氏
白寿参拝

二月二十四日、当西宮神社の世話人である藤村浄氏が白寿を迎えられ、感謝奉告のご参拝に來られました。

藤村氏は韓国で指物師をしておられましたが終戦と共に帰国。昭和二十一年、山口県萩市を経て大工をしていた従兄弟の元で働く為、西宮へ



藤村氏海上渡御供奉船にて

移住、後には「榎建具工房ふじむら」を開業し独立されました。阪神大震災の際には自宅建設中につき、住んでいた仮住まいが全壊したにも拘らず夫婦共に怪我もなく、近隣の方の



藤村氏白寿参拝

介抱にあたられたという事です。当社との関係は古く、昭和五十二年江上町自治会長として当社との係りが生まれ、平成十四年には「西宮まつり協議会」の二代目会長として、産宮参りの復興などに多大なご尽力を賜りました。現在もその温厚なお人柄で皆をまとめられ理事相談役としてご奉仕頂いております。今回参拝され、「神社とは、日本



平成14年西宮まつりで渡御委員長として奉仕する藤村氏

● 時宗法主・遊行七十四代
の他阿眞圓上人ご参拝

昨年九月の西宮神社の秋の大祭、西宮まつりでは、約四百年振りに海上渡御祭を再興し、神戸の和田岬へ神幸、和神神社境内で御旅所祭を執り行ないました。引き続き宮司一行は、近くにある真光寺の一遍上人廟所にもお参りしました。これは国宝一遍上人絵伝に描かれているように一遍上人の臨終に際して西宮神社が面会した故事に因むもので、鎌倉時代・正応二年(二八九)のことでありました。



遊行七十四代他阿眞圓上人

旧臘七日、この返礼の意を含め、真光寺の本山・時宗の総本山、藤沢山清浄光寺(遊行寺とも称す)より、法主・遊行七十四代他阿眞圓上人他、真光寺の総代の方々が参拝されました。時宗法主・遊行上人の西宮神社参拝は、中世近古と度々有り、江戸時代文政年間の「社用日誌」にも記されています。

● 阪神タイガース必勝祈願

球団歌「六甲おろし」の流れる中、選手たちがバスから降りてくると「今年はこのんまっせー」「城島あー！」と熱烈な地元ファンの声援。今年も阪神タイガース監督、選手、役員等がペナントレース必勝祈願に來られました。今年はメジャーリーグより帰国、入団した城島選手の人気も相まってさらに大勢の方が見物に來られていました。毎年この季節になると、「タイガースいつくるの」と聞かれ、ここ西宮の阪神タイガースの人氣は絶大。えびす様のご加護をお受けになられて怪我なくシーズン



真弓監督による玉串奉奠の儀

をすこされる事をご祈念申し上げます。

● 「西宮神社文化研究所」
の開設

当社には、先の大戦の空襲で多数の貴重な資料を消失したにも拘らず、幸にも江戸時代の「御社用日記」「年中御社用記」などの元禄期からの社務日誌が二百余冊残されています。これらの日記を解説しようという試みが、去る平成十八年七月より地元関西学院大学との学術協定により進められてきました。

関西学院大学志村洋教授をはじめ研究者、同大学院生らを中心に元禄期の日誌の解説に努めてきた連携協定も、一応満期終了することになり、この四月一日より新たに「西宮神社文化研究所」を社務所内に設け、この事業を進めてゆくことになりました。同大学の大学院修了の松本和明氏を主任研究員として迎え、解説と活字化、そして全国に広がっていた神札配布の講社、配下先の文書の解説も行なうことになりました。御本殿復興五十周年記念事業に併せ、これらの出版も計画されています。また同室は「えびす信仰資料室」も兼ね、文化課課員により資料の蒐集整理も進められています。



西宮神社文化研究所

初宮参りに お神楽を

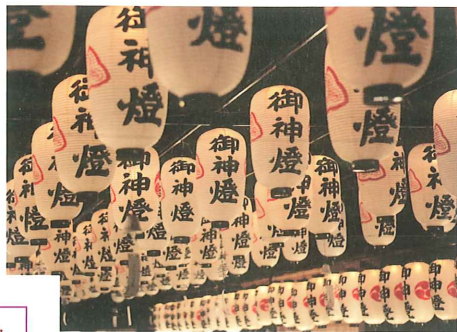
初宮詣のご祈禱料二万円お納め頂いた方には、お子様の健康をご祈願し、特に巫女の神楽を奏しております。また、お宮参りをされ、お祓いを受けられた方には、おまもり袋にお子様のお名前を刺繍した「産子守り（うぶごまもり）」をお送りしております。お子さまが、えびす様の福を末永くお受け頂けます様、お参りをお待ちしております。

産子守り



巫女の神楽

夏祭提灯奉納のご案内



古来より神社では、提灯に灯をともし更なるご神徳を祈願する風習がございます。当社では七月二十日の夏祭・万灯籠にお名前、ご住所の入った提灯を参道沿いに灯します。提灯をご奉納頂き更なるご神徳をお受けになれます様ご案内申し上げます。

【献灯料】三千元 提灯にご芳名とお住いの町名をお入れいたします

【締切】平成二十二年七月十日（土）

各ご案内へのお申し込み、お問い合わせは西宮神社社務所（TEL0798333002）担当係までお願いいたします。

西宮神社会館 「灯の夕べ」特別ディナーのご案内



酷暑の夜を涼しげに彩る「えびす萬燈籠」。西宮神社会館では神事に合わせてお楽しみ頂ける特別ディナーをご用意いたしました。ぜひご賞味下さい。

【日時】平成二十二年七月二十日（火）

午後六時三十分（受付午後六時）

【萬燈籠特別メニューおしながき】

- ・季節の取寄
 - ・お造りサラダしたて
 - ・夏野菜の冷たい
 - ・焼き合わせ
 - ・天婦羅
 - ・季節のごはん
 - ・冷やしそうめん
- ※メニューが変更になる場合がございます。
- お一人様
税込五〇〇〇円
(限定六〇名様)

イメージ

【締切】七月十日（土）まで先着順受付
【問合せ先】西宮神社会館

TEL0798293311

編集室から

●当社では十日えびす期間中に、より円滑にご参拝の方々に情報を伝達出来る様にと、十日えびす携帯サイトを立ち上げました。その結果、開門神事福男選びの最新情報や境内の混雑状況などを配信し、大変ご好評を頂きました。つきましては、十日えびす携帯サイトに引き続き、通常時にも年中行事や、各種案内を気軽に携帯電話で見ることがリニューアルし配信でございます。

是非この携帯サイトをご覧になり、ご参拝の折には参考にして頂きたいご案内申し上げます。



西宮神社
携帯電話サイトアドレス

http://www.nishinomiya-ebisu.com/m/

